二〇二五年度
広島文教大学一般選抜（前期Ｂ日程）問題
国　語

〔注意事項〕

一、試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
二、本冊子は10ページあります。落丁・乱丁・印刷不鮮明の箇所を見いだした場合は、すみやかに監督者に申し出なさい。
三、解答は必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
四、受験票に記載された受験番号を、本冊子と解答用紙の指定欄にはっきりと記入しなさい。
五、字数制限の場合は、句読点等の記号も一字と数えます。
六、この科目の試験時間は七〇分です。
七、本冊子は試験終了後、解答用紙とともに提出しなさい。

受	験	番	号		

〔Ⅰ〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

著作権の都合上、省略。

著作権の都合上、省略。

著作権の都合上、省略。

著作権の都合上、省略。

（出典・煎本孝『こころの人類学』）

注　＊亜北極―北極に近い高緯度の地域。　＊北方アサパスカン語族―北アメリカ先住民の言語の中で最大の語族であるアサパスカン語族のうち、アラスカ、カナダ西部の先住民の言語。　＊E・B・タイラー―イギリスの文化人類学者。　＊ベーリング海峡―アラスカと東シベリアとの間にある、北アメリカ大陸とユーラシア大陸とを分かつ海峡。　＊セイウチ―海に住む大型の哺乳類で、二本の長い牙を持つ。　＊マッケンジー・イヌイット―カナダ北西部を流れるマッ

ケンジー川流域に居住する先住民。　＊トーテムポール―北アメリカ大陸北西部の先住民が作った柱状の木造彫刻。
＊ニヴフ―樺太（サハリン）やアムール川下流域などに居住するロシアの少数民族。

問一　傍線部ⓐ～ⓔのカタカナは漢字に直し、また漢字は読みを答えよ。

問二　傍線部①「超自然的な世界」とあるが、本文中で「超自然的」とほぼ同様の意味で用いられている語として最も適当なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えよ。

ア　二元的
イ　普遍的
ウ　神話的
エ　論理的
オ　本来的

問三　傍線部②「狩猟とは現実の活動であると同時に、霊的な活動でもある」とあるが、「インディアン」にとって「狩猟」が「霊的な活動」であると言える理由を五〇字以内で説明せよ。

問四　傍線部③「ここでは、現実世界の二元的対立項は、本来的には同一のものであると神話的に説明されることになる」とあるが、これとほぼ同様の内容をより具体的に説明した一文を九〇字以内で探し、その始めと終わりの五字を答えよ。

問五　傍線部④「人間と自然との同一性と二元性という矛盾する見方を統合するのが初原的同一性の概念なのである」とあるが、「初原的同一性の概念」に合致する内容を述べた文として最も適当なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えよ。

ア　カナダ・インディアンの子どもたちは、夏のキャンプでコケモモの小さな赤い実やブルーベリーの実を見つけては指先で摘み取って頬張り、自然の豊かさを満喫するといわれている。

イ　カナダ北西海岸インディアンのトーテムポールは、自分たちの祖先を特別な動物たちと関わりがあると説明するなど、自然の表象を用いて専ら人間社会の範疇化を表現したものである。

ウ　「昔、動物は人間の言葉を話した」という前置きで始まるカナダ・インディアンの神話は、今日ではもはや動物は人間の言葉を話さず、両者は異なるものであることを表現している。

エ　ベーリング海峡エスキモーの遺物であるセイウチの牙製引きかぎは、人間の女性がセイウチの母となったという神話を、人間の女性と海獣の二重の表象の彫刻によって表現している。

オ　自然の人格化が重要なのは、人間と動物との間における狩猟を通した屠殺と肉食関係が、二元性を背景とした現実の人間社会の認識を端的に表現しているからである。

〔Ⅱ〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

潮を掬び手水とし、日本の神々を拝み ⓐ給ふ。「上は梵天帝釈、下は四大天王、熊野三所の大権現、大小の神祇、ことには下界の龍神、塩竈六社の明神、願はくは、千島へ渡してたび給へ。大慈大悲」と祈念して、風に任せて行くほどに、通る所はどこどこぞ、こんろが島、大手島、猫島、犬島、松島、牛人島、おかの島、とと島、かふと島、竹島、もろが島、ゆみ島、鬼界が島、蛭が島を、明けぬ暮れぬと行くほどに、七十五日と申すに、興がる島に着き給ふ。

渚より見給へば、高さ*十丈ばかりの者、二三十人出で来りしが、腰より上は馬にてあり、下は人なりしが、①腰のあたりを見給へば、太鼓を付けてぞゐたりける。義経見給ひ、あまりのことの不思議さに、「いかに島人たち、この島は何といふぞ」とのたまへば、島人ⓑ承り、「これは王せん島と申して、隠れもなき馬人島とはこの所なり」。*御曹子はきこしめし、「面々の腰に付けたるは、いかなるものぞ」と問ひ給へば「これは太鼓と申すものなり」。「何のために付けける」とのたまへば、島人申すやう、「われわれが背のあまり高くして、倒れてあれば、起きあがることなし。叫べど声の出でざる時、これを打ち鳴らしⓒ候ふ」と申す。義経、しばらく物語して、逗留も［　Ⅰ　］とて、また御船をおし出す。

風に任せて行くほどに、八十余日と申すには、またある島へぞ着き給ふ。渚に寄せて見給へば、男女の隔ては知らず、②三十人ばかり裸にてゐたりしを、御覧じて、「いかに島人、この島をばいかなる島」とのたまひければ、「さん候ふ。この島は、かしまと申して、［　Ⅱ　］裸島と申すなり」。御曹子きこしめし、「これは神の誓ひかや、所のならひか、不思議なり」とⓓ仰せければ、「神の誓ひにてもⓔましまさず、ただ昔より、この所のならひにて候ふ」とて、かくなん、

風吹けば寒くはあれど裸島麻の衣のやうを知らねば

義経きこしめし、「［　Ⅲ　］ことを申すものかな。さらば、麻の衣を参らすべし」とて、南に向はせ給ひ、*はたひゐんと申すを行ひ給ひて、三度招かせ給へば、*越の上品七八十、船中に見えたり。すなはち、これを島へ与へ給へば、島人

ども、喜ぶこと限りなし。

（出典・『御曹子島渡』）

注　＊十丈―尺貫法の単位。一丈は約三メートル。　＊御曹子―義経。　＊はたひゐん―印または印相。　＊越の上品―越後の上質な麻。

問一　傍線部ⓐ～ⓔの敬語の種類として最も適当なものを、次のア～ウの中から選び、記号で答えよ。

ア　尊敬語
イ　謙譲語
ウ　丁寧語

問二　傍線部①「腰のあたりを見給へば、太鼓を付けてぞゐたりける」とあるが、「太鼓を付けて」いた理由について説明せよ。

問三　空欄 Ⅰ ～ Ⅲ に入る語として最も適当なものを、次の終止形で示されたア～ウの中から選び、さらに本文中での活用形をA～Fから選び、記号で答えよ。

ア　やさし
イ　隠れなし
ウ　せんなし

A　未然
B　連用
C　終止

D　連体

E　已然

F　命令

問四　傍線部③「三十人ばかり裸にてゐたりしを」とあるが、裸でいた理由について説明した文として最も適当なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えよ。

ア　島の人が裸でいることは島のしきたりで、またなんの不自由も感じなかったから。

イ　島には独自の宗教があり、その規律に従わなければならなかったから。

ウ　島の人には神の思し召しによって衣が与えられなかったから。

エ　島の人は麻の衣の作り方を知らず、また裸でいることが島の習慣であったから。

オ　島は南国にあり、衣を着るよりも裸でいたほうが快適であるから。

問五　本文の内容と合致するものを、次のア～オの中から二つ選び、記号で答えよ。

ア　義経は千島を目指し海にでたものの、多くの島を通過し日数ばかり経過し、目的の島にはなかなかたどり着けなかった。

イ　義経が着いた馬人島では、上半身が人で下半身が馬である身長約三十メートルの島民がいた。

ウ　義経が着いた馬人島では、見ること聞くこと初めてのものが多く、長居をして八十日が過ぎた。

エ　義経が着いた裸島では、全員裸で生活しているが、男性と女性との区別がつかなかった。

オ　義経が着いた裸島では、全員裸で生活をしていたので、たまたま船で持ってきていた衣を与えた。